



# はじめに

本書は、これから学会発表する若者のための本である。学会発表をしたことがない若者や、経験はあるものの、学会発表に未だ自信を持ってない若者のための入門書だ。理系文系は問わない。どんな分野にも通じるように書いた。

あなたは今、研究生・大学院生・卒業研究生として研究に勤しんでいるはずで。研究成果を出したら、それを学会で発表することになるだろう。その目的は、あなたの発表を聴衆に理解してもらうことである。そして、研究の価値を認めてもらうことである。しかし、わかりやすい発表の仕方を知らずに臨むと悲惨なことになる。せっかくの発表も、聴衆に理解してもらえずに終わってしまうであろう。だから必ず、わかりやすい発表の仕方を身につけないといけない。

わかりやすい発表をするためには、四つのことを心がける必要がある。

- ① 発表内容を練ること。
- ② わかりやすいポスター・スライドを作成すること。
- ③ 発表本番で、ポスター・スライドを明瞭な論理で説明すること。
- ④ 質問にわかりやすく答えること。

以下で、それぞれについて説明しよう。

## 1. 発表内容を練ること

発表内容を練ることがまずもって大切である。序論・研究方法・結果・結論の各部分で何を伝えるべきなのか。これを知らずして、良い発表をすることなどできないのだ。これは、プレゼン技術以前の——しかし、研究の本質により深く関わる——問題である。伝える内容がしっかりしていてこそ、それを伝える技術（プレゼン技術）を活かすことができるのだ。

## 2. わかりやすいポスター・スライドを作成すること

プレゼンを成功させるためのかなりの部分が、わかりやすいポスター・スライドを作成することにかかっている。説明なしに見ただけで理解できるポスター・スライドを作れば、聴衆を失う可能性はかなり減るのだ。そのためにあなたは、わかりやすいポスター・ス

はじめに

ライドとはどういうものなのかを理解し、それを具現する技術を身につける必要がある。

### 3. 発表本番で、ポスター・スライドを明瞭な論理で説明すること

もちろん、発表本番での説明も大切である。あなたは、理解しようという姿勢を聴衆から引き出さなくてはいけない。それがうまくいくかどうかは、あなたの説明の仕方にかかっている。

### 4. 質問にわかりやすく答えること

質疑応答もうまくやらないといけない。質問者の意図を的確に理解し、それに簡潔に答えること。これができれば、聴衆もあなたも有意義な時間を過ごすことができる。

本書には、これら四つをすべて書いた。つまり、これから学会発表する若者にとって必要なことをすべて書いた。

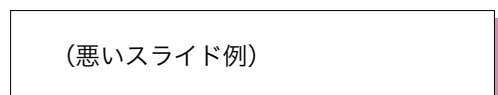
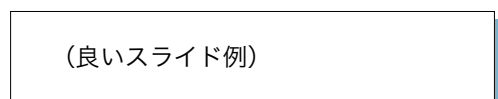
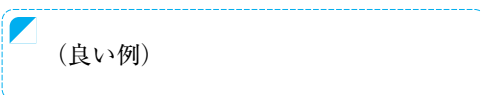
本書は、学会への臨み方を書いた本でもある。学会とはどういうものなのか、そこに行って何をすべきなのかも書いているのだ。学会は、誰にとっても非常に有益な場である。そこでいかに濃密な時間を過ごすことができるか。それが、今後の研究生活の大きな糧となる。しかし、漫然と参加しても得るものは少ない。学会では積極的に行動しないとといけないのだ。そのための指針も、本書から読み取ってほしい。

## 本書の構成

本書は三部構成である。第1部では、学会発表の前に知っておきたいことを説明する。学会とは何なのか、学会発表とはどういうものなのか、学会に行って何をすべきなのか。第1部は、学会への臨み方の解説である。

第2部では、発表内容の練り方を解説する。ここでの説明は、論文の書き方にも通じるものである。

第3部では、学会発表のためのプレゼン技術を解説する。わかりやすいポスター・スライドの作り方。発表本番での、ポスター・スライドの説明の仕方。質疑応答の仕方。これらを徹底解説している。本文中の例では、青囲みで良い例を、赤囲みで悪い例を示した。本書の折り込みに、ポスター見本とスライド見本を掲載している。切り取って、手元に置きながら読み進めてほしい。



## 本書が対象とする読者

本書が対象とする読者は、「これから学会発表する若者」である。具体的には、次のような人たちを想定している。

- 研究の世界に入ったばかりの大学院生・学部生。自分が学会発表する日を夢見ながら、これからの研究生活に打ち込んでほしい。
- 学会発表の経験が浅い大学院生・学部生。本書の内容が、学会発表をする上で役立つことを切に願っている。
- 博士論文・修士論文・卒業論文の発表や、研究室セミナー等を行う学生。本書の内容は、これらの発表にもそのまま通じるものである。
- 学生の発表指導をする立場になったばかりの若手教官。教える側の理論武装の一つとして本書を役立ててほしい。

## なぜ、サッカーの喩えなのか

本書では、サッカーの例を用いた説明をしばしば行う。これは、私がサッカーを愛しており、そして、日本にサッカー文化が根づくことを切に願っているからである。サッカーとは関係のない場面にも、ごく自然にサッカーの話が出てくることが私の夢なのだ。また、仙台市に所在し、宮城県民のJリーグチームであるベガルタ仙台も随所に登場する。これも、ベガルタ仙台を私が愛しているがゆえである。たしかに、浦和レッズとかガンバ大阪とか、全国的に有名なチームを例にした方が多くの方には馴染みやすいことは認めよう。しかしそれは私にはできない。Jリーグチームを例に使うなら、ベガルタ仙台でなくてはいけないのだ。

## さらなる高みへ

学会発表したら、その内容を論文にしよう。研究成果を発表する正式な場は論文なのだ（第1部3.1節参照；p.9）。論文にしないと、せっかくの研究が、正式な成果としては認知されないままに終わってしまうことになる。

論文執筆においては、以下の本が役に立つと思う。

酒井聡樹（2006）『これから論文を書く若者のために：大改訂増補版』共立出版

## 謝辞

本書を書く上で、以下の方々にお世話になった。篤くお礼申し上げる。

- 竹中 明夫さん・石井 博さん・牧野 崇司さん・森長 真一さん・酒井 暁子（私の妻）には、原稿を読んでいただき、貴重な意見をいただいた。

はじめに

- 大西 尚樹さん・三中 信宏さんは、ご自身のプレゼン技術を伝授して下さいました。
- 今治 安弥さん・岩泉 正和さん・山崎 実希さんには、本書の内容に関する要望を聞かせていただいた。
- 秋田 理紗子さん・板垣 智之さん・伊藤 聖さん・今井 はるかさん・小黒 芳生さん・片淵 正紀さん・小嶋 智巳さん・長嶋 寿江さん・濱尾 章二さん・松橋 彩衣子さんには、プレゼンのわかりやすさに関する意見をいただいた。
- 第55回日本生態学会福岡大会において私は、ポスター発表・口頭発表をつぶさに観察した。おかげで、良い発表・悪い発表とはどういうものなのか、考えを深めることができた。当大会での発表者にも謝辞を贈りたい。
- 共立出版の信沢 孝一さん・松本 和花子さんは、本書出版のためにいろいろとお骨折りを下さった。
- 伊藤 聖さん・今井 はるかさん・片淵 正紀さん・小嶋 智巳さん・高柳 咲乃さん（以上、FCポスター発表）、秋田 理紗子さん・小黒 芳生さん・神山 千穂さん・永野 聡一朗さん・渡邊 可奈子さん（以上、FC口頭発表）は、真剣味十分の表紙のモデルになってくれた。
- 「牛たん炭焼利久」さんは、牛タン定食の写真を提供して下さいました。